

お薬による治療効果を最大限に出すためには、 処方されたお薬の特性をよく知って、正しく使用

皆さんは、どこか具合が悪くなると医療機関で診ていただき、そこでお薬を処方されて近隣の調剤薬局でお薬をもらいますね。

普段、慢性疾患等で行きつけの「かかりつけ医」では患者さんにとって最適なお薬を処方していただき、患者さんご自身も長い間そのお薬と付き合っていますと自然とそのお薬のことが詳しくなってきます。しかし、初めての疾患とか今まで診てもらったことがない疾患等で「かかりつけ医以外」で診察・治療を受けられることもあると思います。その時に、初めて処方されるお薬、そのお薬の特性や正しい使用方法を知ることで治療効果は大きく違ってきます。そこで今号では、まず身近に処方されることが多い皮膚科領域の「ステロイド剤」の外用薬について知識を身に付けましょう。

あなたは、「ステロイド外用薬」について、どんなイメージを持っていますか？当クリニックにみえる患者さんの中には、あたかも本当のような嘘の知識を持っておられる方が多くみえます。

ステロイド外用剤とは、局所の炎症を鎮める作用に優れた薬剤で、様々な皮膚の病気に対して効果があり、皮膚科診療においては湿疹・皮膚炎を中心に幅広く使用されているお薬です。この他には炎症を促す物質の産生を抑えたり、炎症反応を引き起こす細胞の増殖を抑える役目も持ったお薬です。

以前は、ステロイド外用薬に関する誤った情報が氾濫し、多くの人たちが不適切な治療を行ったために重症化した皮膚炎に苦しんだことがありました。今でも「ステロイド外用薬は怖い」「副作用が強い」とかで先生方が処方されるお薬を断る患者さんもみえたり、副作用を心配して決められた量よりも少量しか使用しない、短期間ですぐやめてしまう等々、中途半端な使い方してみえる患者さん、それではこの薬の十分な効果が得られませんし、治癒までに長い期間を要することになってしまうのです。

現在のステロイド外用薬は5段階に分類されています。1・最も強い分類では「デルモベート、ジフラー」などが代表的です。2段階目のとても強い分類では「リンデロン、アンテベート」などが代表的です。3段階の強い分類では「フルコート」などが代表的で、4段階の穏やか、普通の強さの分類では「レダコート、ロコイド」などがあります。最後の5段階目の弱い分類では「プレドニゾロン」が代表的なものです。この分類は軟膏を基準に分類されたもので、クリームとかローションなどベース(基材)が異なれば作用の強さは若干異なることがあります。また、赤ちゃんや子供さんに処方するときには、薬剤分類のランクを下げますが、これは皮膚のバリア機能が未熟のため大人に比べて薬剤が浸透しやすくなるための選択です。特に市販薬を買って使用する場合など、この基準を参考にされたらどうでしょうか。ご心配な方はどうぞ遠慮なく当クリニックに相談に来てください。最適な安心な治療提案をいたします。



クリニック名古屋ちくさヒルズ
林祐司 院長

当クリニックにみえる患者さんの「嘘のような」「本当のような」お話を参考に、下のクイズに嘘か本当かの挑戦をしてみてください。

Q1「ステロイド外用薬を中止するとリバウンドが起こる？」
Q2「ステロイド外用薬使うと色が黒く残ってしまう？」
Q3「ステロイド外用薬は皮膚に蓄積する？」
Q4「ステロイド外用薬を使うとニキビやおできがでやすくなる？」
Q5「ステロイド外用薬を使うと骨がボロボロになる？」

さて、あなたのステロイド外用薬についての知識の具合は？
答えは二面の「健康の知恵袋」を！解説は次号で！



財団榊副会 理事長
クリニック東京虎ノ門COR
林 衆治 院長

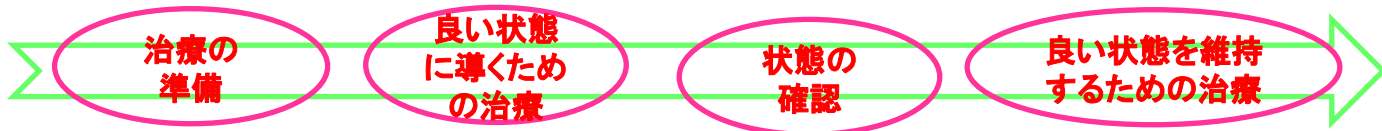
今の子節、一番痒くて辛い時期 乗り越えたい！ =あなた自身が納得して取り組むことが大切=

それは アトピー性皮膚炎

このアトピー性皮膚炎とは、皮膚のバリア機能が低下して痒みを伴う湿疹が良くなったり悪くなったり繰り返す疾患です。原因はいまだ不明ですが、アレルギーを起こしやすい体質や遺伝などが発症に関係すると考えられています。また、ダニやホコリ、発汗など物理的な刺激や精神的なストレス等々症状を悪化させることが広く知られています。

アトピー性皮膚炎の治療の目的は「良い状態を長くキープする」ことなのです。良い状態とはどんな状態を言うのか、それは、分かりやすく言いますと、一つには「症状がない状態、あるいはあっても日常生活に支障がなく薬物療法もあまり必要としない状態」で、二つには「軽い症状があっても急に悪化することはなく、悪化してもその状態が長く続かない状態」を目標として治療が進められます。しかし、患者さんの生活環境や生活習慣などによっては再び症状が現れることがあるために治ったとは言いきれないのが特徴です。

具体的な通常の治療の流れとしては、



当クリニックでは、このような通常の治療方法ではなかなか効果が
感じられない方にご提案したいのが日帰りのできる

「幹細胞治療」です。

アトピー性皮膚炎とは免疫細胞が過剰に反応を起こすことで、長期にわたって炎症を繰り返す病気です。免疫細胞が起こす過剰な反応とは、炎症や痒みの原因となる成分であるIL-3、IL-14という成分を産生することで症状が現れ、この悪循環が繰り返されることで症状が長期化して中々治らなくなってしまいます。

そこで「幹細胞療法」を選択すると、幹細胞は免疫系を調整、抑制する性質を持っており、IL-3、IL-14という成分の産生を抑制する効果が期待でき、それによって自分の免疫系が抑制され、自己免疫疾患が起こらなくなる、更には損傷された組織が幹細胞によって修復され再生されることで、長い間悩まされてきたこの疾患から解放されることに大きな期待が持てるということです。

詳しいことにつきましては、ご遠慮なく当クリニックに来院いただければわかりやすくご説明させていただきます。ホームページ、インスタ、ユーチューブでもご参考ください。

健康の知恵袋

一面の林祐司先生のクイズの答えを先生からお聞きしました。Q4は「○」で、それ以外はすべて「×」とのことでした。因みに私は正解がゼロでした。お恥ずかしいです。先生からの答えの詳しい解説は次号でお話しいただけるようです。楽しみに待ちましょう。



広報紙 「医療法人榊副会クリニック通信」
発行 医療法人財団榊副会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
〒464-0858 名古屋市千種区千種2-24-2
千種タワーヒルズ1F

ご意見はこちらまで info@clinic-chikusahills.com
編集・発行 医療法人財団榊副会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
編集委員会(原稿責任者 川島和信)
発行日 毎月1日